

卒業時の獲得能力に関する調査結果報告（学修成果に係る報告）

本学では、2016年度以降、前年度末卒業生に対して、卒業半年後に、アンケートを実施しています。その中で、特に、本学が定める「日本福祉大学スタンダード（4つの力）」※について、卒業時での力と卒業後半年で重要だと思う力に関する設問を設定しています。

設問は、「4つの力」それぞれに数問から構成されており、全部で19設問となっています。また、各設問は、「そう思う」（4点）から「そう思わない」（1点）の4件法であり、以下の集計結果の得点は、いずれも1から4点の範囲を取ります。

以下に、それらの結果について報告します。

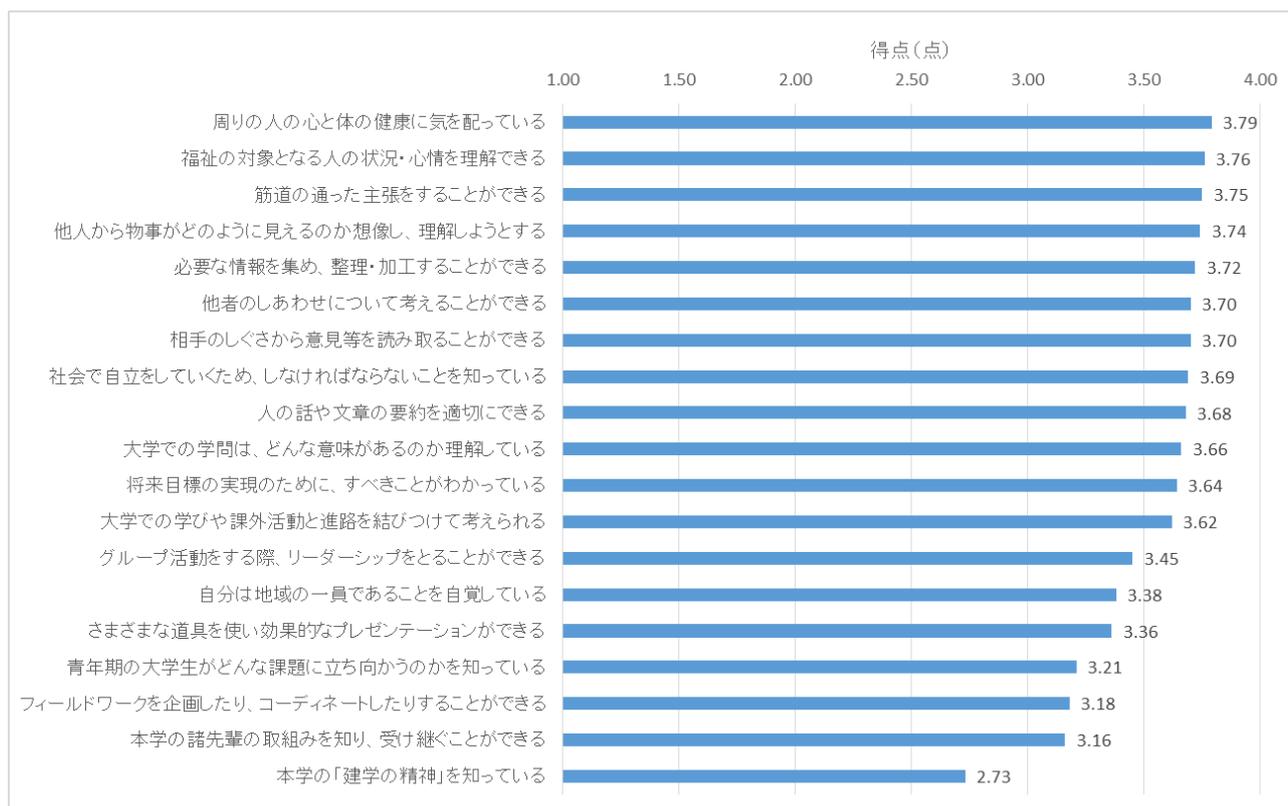
※「日本福祉大学スタンダード（4つの力）」とは、本学の建学理念を受けて、本学の学生全体が修得すべき能力・資質として「四つの力」（「見据える力」、「共感する力」、「関わる力」、「伝える力＝理解する力」）を定めている。

	2016年度	2017年度	2018年度
対象者数 ※	767人	845人	1,086人
回答者数	57人	65人	141人
回答率	7.4%	7.7%	12.98%

※2016・2017年度は前年度の社会福祉学部、子ども発達学部の卒業生を対象に、2018年度は通学課程の全学部の卒業生を対象に実施した。ただし、アンケート回答拒否者を除いているため、実際の卒業生数とは若干異なる。

1 卒業半年後に重要だと思う力（2018年度）

卒業半年後に重要だと思う力について聞いたところ、「自分の周りの人の心と体の健康に気を配っている」が3.79点と最も高くなっており、次いで、「福祉の対象となる人の状況・心情を理解できる」（3.76点）、「筋道（すじみち）の通った主張をすることができる」（3.75点）、「他の人からは物事がどのように見えるのだろうと想像し、理解しようとする。」（3.74点）、「自分で必要な情報を集め、整理・加工することができる」（3.72点）の順となっています。

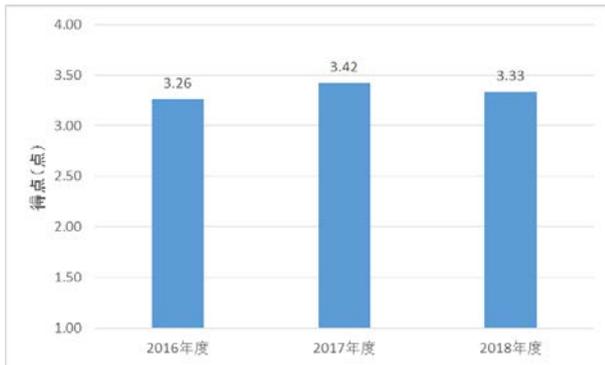


図表1 卒業半年後時点での「重要だと思う力」（得点降順）

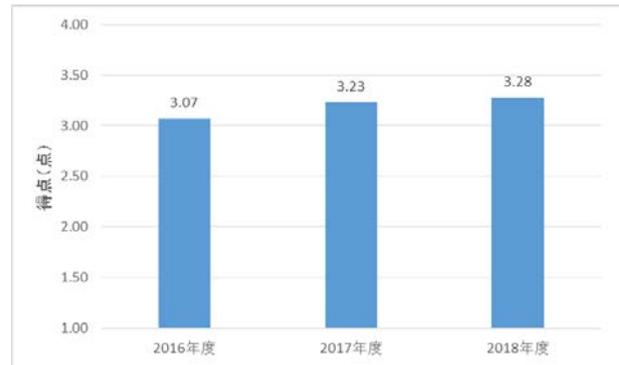
2 「重要だと思う力」に対する卒業時の力の経年推移

先の「重要だと思う力」の上位5項目について、2016年度～2018年度の卒業時の状況（力）の推移を確認する。

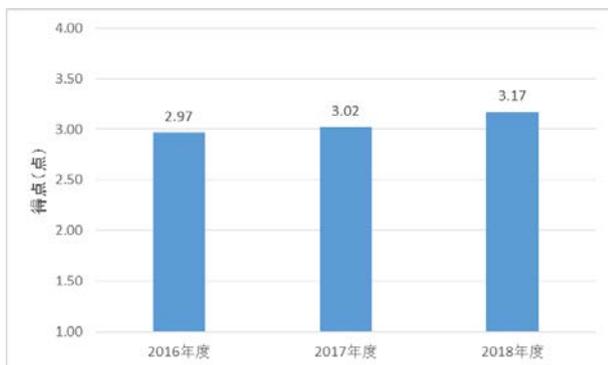
(1) 自分の周りの人の心と体の健康に気を配っている。



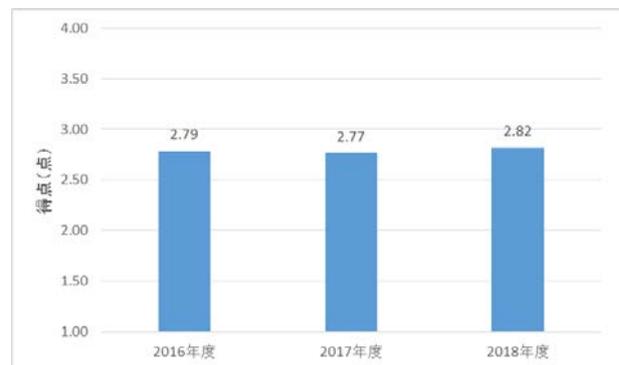
(4) 他の人からは物事がどのように見えるのだろうと想像し、理解しようとする。



(2) 福祉の対象となる人の状況・心情を理解できる



(5) 自分で必要な情報を集め、整理・加工することができる



(3) 筋道（すじみち）の通った

主張をすることができる

